

闘病日記

後編（7月26日～8月15日）

7月26日（水曜日） 天気（雨のち曇り）

今日は一時外泊と言うのに朝からシトシトと雨が降り続けている。それはまるで僕の外泊を悲しんでいる様にすら感じてしまう。実際に悲しむ人間なんて朋子ちゃん以外はいなかった。朋子ちゃんは僕の後ろ姿を淋しそうにいつまでも見つめていた。大丈夫だよ朋子ちゃん、僕は一泊すれば戻って来るのだからそんな永遠の別れみたいに悲しまなくていいんだよ。僕はそんな朋子ちゃんの視線を背に受けながら入院してから初めて病院の外に飛び出した。外の空気は雨にも関わらず僕の胸は開放の幸せに包み込んでいく。久しぶりに感じる開放の気分、それはまるで水を得た魚の様に僕の心を弾ませる。けれどどのんびりもしてはいられない。僕は一人暮らしをしているので、マンションの方も気にはなっていたが、実家に直行した。二週間ぶりを見る我が家、何もかもが懐かし過ぎる出来事のように僕には感じられた。そして久しぶりに見る僕のホームページ、知らない間にアクセス件数1000件を超えていたし、掲示板にコメントも幾つか書かれていた。僕は一通りの作業をして後は夜にやることだけ残して電源を落とした。それからの僕は色々な友人に電話を掛けて事情（現状）を説明した。そして晩飯を食べてまたコンピューターの電源を入れ今日記を書いています。本当に今日という幸せな日の事は忘れないうだろう。けれど明日になればまた憂鬱な病院生活が僕を待っている。時計の針は11時を過ぎたばかりだ、お願い時間よ止まってくれ、もう少し僕に時間をください。きっと僕は今日は寝ないつもりです。何故なら少しでも自由を感じていたいから。今日の日記はたいしたことも書けずに終わりにしてしまうけれど、また明日から闘病日記（後編）を本格的に書きますので、よろしくお祈りします。それではまた明日。

～終わりたくない今日 過ぎ去りたくない時間 大切なモノを見つけるまでここに居たい
始まりたくない明日 迎え入れたくない時間 大切なモノはまだ見つけられない
だから時間よ止まって だって僕は君の寝顔をもう少し見ていたいから・・・～

7月27日（木曜日） 天気（曇り）

今日はまた病院に帰らなくてはいけない日だ。出来ることなら家にこのままずっと居て自由に暮らして行きたいけれど、そんな事は言ってもらえないのだ。僕は病気を克服して早く社会復帰をしなければならない。その為に入院生活を始めたのだから、途中で挫折するわけにはいかない。僕は憂鬱な気分のまま電車とバスに揺られて病院に戻って来た。けれど病院に帰って来るとそんな憂鬱な気分をうち消すかの様な出来事が僕を待っていた。

一つはツーさんこと鶴川さんが大暴れをしていた。体重が100kg以上もある大きな体で大暴れをしているが誰も止められない、椅子はけっ飛ばすはテーブルはひっくり返すはで、その光景は昔映画で観たキングコングそのものの様だった。僕が病院に着いた時にはすでに暴れていて、その原因は知らなかった。けれど後で人に聞いた話だと単なるわがままの延長線上で暴れたと言う事らしいが、真意の程は分からないままだった。けれど僕にはそんな事はどうでもいい様な事があった。それは朋ちゃんからの告白が待っていた。

最初は恥ずかしがってなかなか言えなかったみたいだけど、勇気を持って告白してくれた。けれど僕の気持ちは正直言って複雑な気持ちではあった。純粹に考えれば嬉しい事なのかもしれないが、果たして僕はその小さな愛をきちっと受け止める事が出来るのだろうか？けれどそんな気持ちの答えは直ぐには見つからない。きっと僕が分からない様に彼女もまた分からない事なのだろう。けれど彼女はしっかりと僕に「和彦さんが好き、こんな気持ち初めてなの」と勇気を持って告白してくれた。だから僕もその告白に素直に答えた。

「僕も好きだけれど、病院を出て外で会わなければまだ確かめられないよ」と言って彼女とは外で会って色々な事をしたり色々な所に行ったりする約束だけは交わした。そして彼女もその事だけは理解してくれた様だった。それから僕の気持ちは複雑になりまた少し混乱し始めた。それでも彼女は僕無しではダメなの等と言って僕を困らせた。僕は仕方なくそんな彼女に口付けをした。それでいくらかは彼女の気持ちも落ち着いたのだろう。でもその事で僕は今も尚混乱が続くので今日はこの辺で日記を終わらせようと思います。今夜はきっと眠れないでしょう。

～街角に咲く小さな花を僕は見つけた けれどその花の臭いも分からなければ名前すら分からない ただ小さな花がそこにはあって 僕はその花を愛しく思っている
ただそれだけの事だった・・・～

7月28日（金曜日） 天気（曇り）

今日は本当に長い一日だった。昨日一泊二日で外泊をした。けれど僕はまた今週末の29日～31日までの二泊三日で外泊を希望していた。しかしそれを許可してくれるのは担当医だけで、他の人では許可がとれない、だから今日中に担当医に会い許可を申請してもらわないわけにはいかない。けれど今日に限って担当医がこの病棟に現れない。昼間は外来がメインなので、入院病棟には現れない事は分かる、けれど午後や夕方にも現れないと言う事は今までではあまりなかった。けれど今日に限っては夕方になっても担当医が現れない。そうやって来ると不安だけが膨らんでいく。時間はすでに7時を回っている、早い人はもう睡眠薬をもらって寝に入る人もいる時間帯になっていた。けれどそれでも担当医は姿を見せない、僕は必死にテレパシーを送ったが応答は無い。そして時計だけが無駄に過ぎていく。僕の焦りはピークに達した8時前頃にやっと僕の担当医は姿を現した。やっぱりテレパシーは通じたのだ。僕は直ぐに担当医に許可をもらいに走った。担当医は色々見なきゃいけない病棟があったので、遅くなった事を説明した後、僕の外泊許可を取ってくれた。だから僕は今こうして安心しながら日記を書いています。けれど担当医が来るのが遅かったせいで書くのに時間が余り無い、もうすぐ消灯の時間になるので、今日の日記はこの辺で終わらせる事にしよう。それじゃお休みなさい。

～君が来るのを僕はじっと待っています 君はのそのそ遅いけど確かに僕に近づいてます 君の名前を僕は呼んでみた 君に僕の心が届くかな 遠い遠い彼方に君の姿は見えるかな 君に僕の姿は見えないけれど 僕はどんな人が溢れていても君の姿を必ず見つけるよ 何故ならだって僕は君に会いたいのだから～

7月29日(土曜日) 天気(晴れ)

今日は二回目の外泊、それも二泊三日、朝から気持ちはうきうきしていました。親が10時頃車で迎えに来てくれました。僕は洗濯ものを幾つかとノートパソコンを持って病院から出ました。病院から出た僕らはそのまま家に直行しなくて、親戚が逗子海岸でやっている海の家に向かいました。親戚は逗子海岸でむさしのと言う名前の海の家をやっています。白くてちょっとモダンな感じの雰囲気がとても良い海の家でした。僕はそこでグアバジュースとカレーライスとかき氷を食べてから家に帰る事にしました。帰りの車では僕は寝てしまい気が付くと家に着いていました。日に日に強くなっている処方箋のせいで僕はいつでも頭がボーとする事が多くなって来ています。ちなみにこの日記をそうした中で書いているので、意味不明や誤字脱字、内容がバラバラだったりしてしまいます。だから言い訳じゃないけれど、あまり面白い日記が書けない事を理解してください。とにかく今日は色々と疲れたみたいで、今睡魔と戦いながらこの日記を書いています。もうすぐ眠気の限界が来るので、この辺で今日の日記を終わらせたいと思います。

~グッド ナイト ベイビー

良い夢が君を守る事を僕は祈っているよ

グッド ナイト ベイビー

悪夢なんてもう見なくてもいいんだよ

グッド ナイト ベイビー

だって僕らは現実世界でこんなにも傷付いてしまっているのだから・・・

7月30日(日曜日) 天気(晴れ)

今日は久しぶりに一日中家に居た。正確に言うと外に出かけていたので家には居なかった。けれど行き先が面白かった。いつも日曜日に見舞いに来てくれる友達がいるのだけど、その中の一人は僕の入院している病院の直ぐ近くに住んでいた。結局その友達とも今日は遊んだので、気が付くと病院の目の前の海岸で暇をつぶした。これじゃ何の為の外泊かよく分からない。結局のところ家に帰って来ても出かけた場所は特になかったと言う事になる。けれど外泊と閉鎖病棟の入院とでは行き場所が同じだとしても気分が違った。今日は横須賀の海岸を軽く流して横須賀中央にあるダイエーで時間をつぶして帰って来たのだけど、かなり疲れた。ちなみに僕はずっと助手席に座っていたのだけど、それでも疲れは出る。処方箋もかなり強いものに変えられていることもあり今日は一日中ボーとしていた。何をしても刺激的なものはなくて、どうでもいいような感じで、ただただかったるく疲れを感じるだけだった。けれどまた明日になればイヤでも病院に戻らなければいけない。そう考えるとこの自由な時間は貴重なものになる事は分かっている。けれど何をしても気が沸かない一体何故そうなったのかは分からないが、気が付くと廃人の様になってしまう。下手をするとこの日記でさえ書くのがおっくうになってしまう。それと今日の出来事は午前中に美容院に行った事くらいだ。これで少しはさっぱり出来るのかもしれないが、今は髪型すらどうでもいいような気がしてしまう。こんな調子で日記を書いても読み手はつまらないだけだから今日の日記もこの辺で終わらせようと思う。

～イヤなこと沢山ありました 嫌いな人間沢山いました けれど今は思い出
数々の思い出膨らんで いずれはパンクするのだろう
だから君にその全てをあげられない だからほんのちょっと僕のこと分かってください～

7月31日(月曜日) 天気(晴れ)

今日はまた病院に戻る日です。三日ぶりにこの病棟に戻って来ました。今日の出来事としては午前中に家を出て兄が運転してくれた車に乗って横須賀の観音崎の先にある鴨居港の寿司屋に入って豪華な昼食をとったくらいのもです。本当は他に美味しい店があるらしかったが、今日は祭りの日らしく店は殆ど休みだったために、急遽(殆ど強引に)近くの寿司屋に入ってご飯を食べました。それ以外は特に何かあったと言うことは無かったが、やはり病院に戻って一番喜んでくれたのは朋子ちゃんだけでした。朋子ちゃんはこの三日間ずっと泣いてたんだよと僕に言ってくれたが、僕としては複雑な気持ちでした。それに僕はきっと近いうちに開放病棟に移されるので、そうなれば病院を退院しない限り朋子ちゃんには会えないのだから、寂しがられるとかえって辛くなる。ちなみに僕がいなかった三日間の間に二人も急遽開放病棟に移った人がいたらしく、僕が肩を叩かれるのも時間の問題だろうと思います。そうなれば朋子ちゃんに会うことも出来なくなり、必然的に二人の距離は離れてしまうことになるのは目に見えています。

朋子ちゃんは盛んに他の病棟には行かないでと僕に言って来ますが、医者の方でそれが病気の回復に繋がるなら僕は行かないわけにはいかない。だからそれまでは会えるけれど、それ以降は会えないのを我慢してとしか言えない。朋子ちゃんも最後にはそうだね、退院するまでの我慢だね、と僕のことを理解してくれた様だった。それにしても日記に書ける事が少な過ぎる、このところ書くことが殆どマンネリ化している。それは良く分かっているので今日のところもこの辺で終わりにして、明日への希望だけを残して置こう。

～何もない毎日が僕を支配していく 何もない日常が僕を苦しめていく
誰もいない孤独が僕を束縛する 愛おしさも切なさも僕を包み込んでいく
僕は方向を見失いそうさ けれど明日の風は吹いてくる
いつも僕に向かう場所と違った方角から・・・～

8月1日(火曜日) 天気(晴れ)

やっと八月になったと言うのに僕の記事はネタ切れしてしまっています。明日になれば病院内で行われる盆踊り大会のことも書けるのだろうけれど、今日は何も起こらなかったもので、今日書くことが無い。最近ではあれだけトラブルメーカーだった松本も落ち着いていて、何も騒ぎを起こさない。きっとこんな生活を人は平和と言うんだろう、けれどそうなればなつたで平凡な毎日で人間は退屈してしまう生き物なのだ。きっと人間は片方で平和を願うもう片方で騒ぎを起こしたくなるのかもしれない。まあどちらにしろ今日の僕の記事に書ける様な出来事は何も無かった。ただそんな中でもどうしてもと言う人の為に書こうと思います。最近病院内でテレパシーが流行っている、と言うよりマイブームに近いのかもしれないが、待っている人が早く来ないかなと念じるといきなりその人が現れたり、この人と話をしたいなと思っていると急にその人が話しかけてきたりと言うことだけ

なんだけど、これが本当にそうなるんだから面白い。けれどこのことは僕ともう一人の井田さんと言う僕より二つ年上の人とやっていることなので、他の人は知らないはず、だから僕らは二人でコソコソとやっているだけのことだった。まあこんな事を書いても全く面白みが無いので、この話しはとりあえずこの辺で終わらせようと思います。それでは明日何か面白い出来事があるように祈りながら僕は寝ます。お休みなさい。

~何もない日々が過ぎていく 宛もない毎日が過ぎていく
僕は上手くその流れに乗れない だから僕の周りは過ぎていく過去に振り回される
僕も思い出も連れてって その名もない明日という場所に・・・・~

8月2日(水曜日) 天気(晴れ)

今日は待ちに待った盆踊り大会の日だ。今はまだ15時を過ぎたばかりで、盆踊りの事は明日の日記に書くことにしよう。だからと言う訳じゃないけれど、今日の日記には久しぶりに体を動かした事を書きます。今日のレクリエーション(週に一回ある)で、バレーボールをやった。バレーボールと言っても、本格的なものではなくて、ソフトバレーボールを使ったお遊び程度の事だ。けれど僕にとっては本当に久しぶりに体を動かした事になる。少なくともこの入院中は殆ど体を動かした事は無かった。唯一体を動かしたと言えば卓球くらいのもので、それ以外は静養と言う名目の不自由を背負わされている。だからこのバレーはそう言った意味でも本当に久しぶりの出来事だ。ちなみに僕のチームは二勝一敗で勝った事になるが、勝ち負けは関係なく体を動かした事に意味があり、ゲームをした事に楽しむ事が出来た。けれどそれを面白く書く事は出来ない、これ以上書いても無駄な活字の羅列になるに過ぎないので、今日の日記はこの辺で終わらせてもらいます。今から今夜の盆踊り大会がとっても楽しみです。

~ちょこっと与えられた自由 ちょこっと感じた幸せ
ちょこっとでいいよ
だって今の僕にはまだその全てを受け入れる事なんて出来やしないのだから・・・・~

8月3日(木曜日) 天気(晴れ)

今日は昨日の続きを書きます。昨日の夕方から夜に掛けて盆踊り大会がありました。正直言ってその事だけを考えて楽しかったと言う一言だけで済んでしまうのかもしれない。けれど今の僕は昨日の盆踊りの時に感じた楽しさとは違って何故だか切なさが僕を支配しています。楽しい思い出が出来れば出来るほど切なさが増すのは何故なのだろうか、答えは分からないけれど僕の今の心境は切なさが全てとなっています。まだ実際には死なないけれど、死んでしまいたいとすら考えてしまいます。昔の楽しかった幸せは、今の僕には耐えられない位悲しい思い出となって思い出してしまいます。まだ僕が元気だった頃、好きな女の子と一緒にいった盆踊り大会の事が思い出されます。彼女はこれ以上ない笑顔で僕の横にいます。そして僕もこれ以上ない幸せな気持ちで彼女の手を握っています。その頃の二人には当然別れる事なんて考えてもいません。ただそこに幸せがあって、そして二人はその幸せをただ感じているだけなんです。けれど僕ら気が付かないうちに別々の

道を歩く事になってしまった。今思えば少しの妥協で幸せを維持できたのかもしれませんが。けれど僕は若さのせいだろうか、譲り合えなかった。そして二人は別々の道を決意してしまいました。今更だけど今思えば、僕はそんな幸せを自らの手で壊してしまったのだろう。今は心だけが痛みを感じます。今夜はまた涙を流してしまいそうです。早く元気になってそれ以上の幸せを見つきたいです。

～一つの幸せと一つの過ち こんなにも僕を苦しめるなんて
一つの幸せと一つの傷跡 こんなにも僕を悲しませるなんて
ねえ神様 僕にも何処かの誰かさんみたいに その幸せってモノをくれないかな・・・～

8月4日(金曜日) 天気(晴れ)

今日からまた久しぶりの外泊が出来る。まあ外泊と言っても特に行く場所があるわけじゃないから、実家に帰って静養をするだけの事になる。けれど今日はちょっと用事があったので新宿に行かなければならなかった。新宿で女の子の友達Nさんに会わなければならなかった。僕は出来る事ならあまり人混みには行きたく無かったが、どうしても渡さなきゃいけない物があり、新宿のアルタの裏で待ち合わせをした。それから二人はちょっと静かな喫茶店でお喋りをして、一時間位で別れた。僕はそのまま実家に逃げる様に帰って来た。けれどたかだか一時間位しか人混みにいなかったのに、僕はかなり疲れていて、家に帰ってからもしばらくは調子が悪かった。僕は最近何故か妙に悲しくなる癖が出てきた。今日も帰りの途中で電車の中で涙を流してしまった。一体何故なのだろうか？・・・淋しいから？・・・悲しいから？・・・薬の副作用？・・・原因は分からないけれど何故か切なくなってしまう。今も切なさを感じながら日記を書いています。早く病気を治して誰かを愛そう。そうすれば治るのかな？ とにかく今は治療に専念しよう。それと日記も毎日じゃなくて何か書きたくになったら書く事にしよう。そうしなければ読み手も面白くないし、書く僕も苦しいだけだから。だからこれからは日が飛んでしまうかもしれないけれどご了承ください。

～ねえ抱きしめてよ だって僕はここで震えているから
ねえ抱きしめてよ だって僕はここで悲しんでいるから
ねえ見て見ない振りをしないで だって僕はここから一步も動けないんだから・・・～

8月5日(土曜日) 天気(晴れ)

今日は朝から実家に居た。けれど何をしたかは分からない。殆どボーとしていたので、何もしてはいない。あえて何かをしたというのなら、夕飯を実家の近くの親戚の家に食べに行った位の事なのかもしれない。何故そんな生活になるのかは分からない。病院に居るときはとにかく家に帰りたいたいと思っているのに、いざ実家に帰って来ると、結局は何もしないで終わってしまう。けれど気持ちは大きく違う。家にいるときにボーとしているのと閉鎖病棟でボーとしているのでは心のリラックスさが違って来る。やはり何もしないと書いても心はリラックスしているので時間が経つのが早い。出来ることならこのまま実家に居たいとすら思う。けれど明日になれば間違いなく、僕はまた閉鎖病棟に帰らなくては

ならない、そう考えると家での時間が貴重なものになる。だからと言って何が出来るかと言っても何も出来ないと言うのが本音である。これが退院したとなればまた創作活動が出来るのかもしれないが、今はまだそんな事まで出来ない。この日記を書いているのが精一杯ってところ。今日も何もなかったが日記だけは書いてしまった。明日からは日記に意味があるような日記を書きたい。

~僕に永遠の自由をください そして僕に永遠の平和をください
僕はいつでも輝きたい だって僕は永遠を求める夢追い人なのだから・・・~

8月6日(日曜日) 天気(晴れ)

今日も意味のない日記を書いてしまいます。今日は一時外出の最終日だったので、また病院に帰って来ました。今日の出来事と言える様な出来事は今日はありません。お昼ご飯を家で済まして父が運転してくれた車で病院に向かいました。途中横浜横須賀道路のサービスエリアで美味しいソフトクリームを食べたくらいで他には何処も寄ることもなく病院に着いてしまった。僕は道中、病院には帰りたくないと言ったがそんな主張もむなしく病院にはほぼ時間通りに着いてしまった。病院に戻っても僕を歓迎する人は誰もいない、佐藤さんは一週間外泊中で今週の木曜日にならなければ帰って来ないし、朋子ちゃんも今日明日と一泊二日の外出中で居なかったと言うこともあって、僕を歓迎してくれる人は今日は誰も居なかった。僕は仕方なく病室でおとなしくする事に決めた。だから日記に書くような事は殆ど無いに等しいけれど、習慣というのは恐ろしいもので、コンピューターを起動させ日記を書かないといわれなくなってしまっている。だから今日も意味の無い日記だという事は分かっているながらも書く羽目になった。でもここにいる限り毎日何も無いと言う事はしょっちゅうある。医者のお話ではこの何もない時間と空間が静養になる等と屁理屈を言う。・・・刺激の無い日常・・・これこそ医者が言う治療の一步だと言うことらしい。けれど僕はこの何もない日常には耐えきれない程精神は混乱している。だけど僕はこのからはまだ出られない、医者が許可するその日まで・・・。

~自由って一体なんなのかな 僕は僕の思う通りに生きているのかな
自由になりたくて僕は戦ったのに 今は不自由の中で震えているよ
自由って一体どういう事なのかな 君は君の思う通りに生きているかい？
僕は一体何？ 時々僕は僕自身を見失いそうになる
僕は思い通りに生きているかな
見えない鎖(不自由)にいつでも縛り付けられているのに・・・~

8月7日(月曜日) 天気(晴れ)

今日も特に書きたいことがあったわけでもないのに、日記を書いてしまいます。ちなみに最近パソコンが立ち上がるまでが遅く感じてしまう、だから立ち上げまでの位掛かるのか計ってみたところ、なんと2分52秒も掛かっていた。だから遅く感じるのだ。けれどそんな事はどうでもいい、今日の出来事を書かなければならない。ちなみに今日の出来事は午前中に風呂に入ったことくらいで、特に大きな変化は無かった。けれどついさっき

担当医の言葉から今月中旬頃開放病棟に移らないかと言われた。けれど中旬と言えば退院もその頃じゃないんですかと言う僕の言葉に、ああそうか、じゃあここ（閉鎖病棟）から直接退院しようと言って来た。結構医者の治療計画も曖昧なもので、適当なのかもしれないと感じてしまった。けれど何はともあれ退院の日が近づく事は良いことだ、中旬と言えばもう来週の事だ、だから僕はその日までがんばってみる事にしよう。けれど朋子ちゃんが僕の退院と言う言葉に対して悲しいように僕を見つめている事だけが不安だった。けれどそんなに心配する事じゃない、僕が先か朋子ちゃんが先かの違いだけで、そんな大きな問題じゃない。少なくとも今の僕には退院の目安は微かな希望の一つに過ぎない。だからそれすら僕から奪わないでね、だって僕らは出会いと別れを繰り返して生きているのだから。

～真っ白な霧が僕を包み込む 辺り一面真っ白で何も見えない
空からは一筋の光が差し込んでいる 僕は目をつぶって走り出す
光とは反対の方向に向かって～

8月8日（火曜日） 天気（晴れ）

今日は久しぶりに気持ち良く日記が書ける。理由は待ちに待った退院の日が決まった事だ。ちなみに退院の日は来週の水曜日（8月16日）に決まった。水曜と言えばあと一週間もすれば直ぐに来る。けれど本当にこれで良いのかと言う部分もある事は確かだ。確かに僕は入院してから一ヶ月が経つ、けれど治療らしい治療はした覚えが無い。ただ毎日同じ事を繰り返してばかりで、処方箋以外の治療はされていない。そんな僕が社会に戻ってちゃんとやって行けるのだろうか、疑問形だけがそのまま残される。けれどかと言って、もう少し延ばそうかと言われると断るだろう。だからちょうど良いのかもしれない。ちなみに一ヶ月と言う期間は他の入院患者に比べると早い方だ。人によっては三ヶ月から半年、長ければ一年以上と言う人もいる。そんな中で一ヶ月で退院の僕はスピード退院になる。けれどそれは症状によって違うものなので、医者が決める事なのだろう。けれどこの医者が決めると言うのがくせ者でもある。どう見ても僕より症状が軽い人が何ヶ月もいると思えば僕より症状が重い人が僕より早く退院することもある。案外医者も適当なのかもしれない。そんな中で退院するのだから、不安だけが残される。けれど僕はとにかく退院したい、退院後の事は退院してから考えればいいことで、今考えても仕方ない。とにかく今夜ゆっくりと眠りたい。安心だけに包まれながら・・・。

～今夜は旅に出る夢でも見たいな 今夜は幸せに包まれた夢を見たいな
大丈夫だよ 大丈夫だよ 君の声が聞こえます
大丈夫だよ 大丈夫だよ 君の声が励ましてくれる
きっと大丈夫だね 僕はがんばるよ 君が僕を見つめていてくれる限り・・・～

8月9日（水曜日） 天気（晴れ）

今日は久しぶりに日記らしい事が書ける。今日の僕の行動は単独外出の許可が下りたので知人の女の子友達のCさんと久里浜のフェリー乗り場に十時半に待ち合わせてフェリー

に乗って金谷（千葉県）まで行って来た。フェリーの所要時間はだいたい三十分から四十分位なので、午前中には金谷まで辿り着いた。そして僕らは二時二十分発のフェリーで帰る予定にしていたので、金谷にあるガストに昼食を兼ねた暇つぶしに入った。それから思い出話や今の現状の話し等をして盛り上がった。本当に楽しい時間と言うのは早く経つんだとこの時に久々に感じた。けれど何が楽しいのかは今となるとよく分からない。きっと女の子と二人で小旅行をした事が楽しかったのかもしれない。それはまるでデートをしているカップルの感覚だった。けれど時間が経てば僕らはまた別々の道を歩いて行かなければならない。Cさんが右なら僕は左、Cさんが北なら僕は南、それはフェリーが久里浜に戻って来れば必然的に僕らは別れる。だから帰りのフェリーは憂鬱だった。けれどこの病院を退院すれば僕は自由になれる。それもあと一週間も我慢すればいいことだ。だから僕は人混みで例え足を踏まれても我慢しなければならない、退院さえすれば自由が待っている。だから僕はがんばろう。今はまさに我慢の時だ。絶対に僕は我慢する。例え今の幸せを壊すような事があっても・・・。

～ちっちゃな幸せ 大きな夢を僕は追っかけています
ちっちゃな愛と 大きな勇気を僕は追っかけています
誰かそんな僕を抱きしめてくれますか 粉々に散った僕の心を誰か探してくれませんか
僕はもう少しここに居るよ だって僕の心はまだ壊れたまんまなのだから・・・～

8月10日（木曜日） 天気（晴れ）

今日は朝から病院の中が慌しかった。理由は夕べ病棟内で殺人未遂があったと言う事だった。誰かが寝てる間に首を絞められたと言う事だった。勿論首を絞めた人は即がっちゃん部屋に移されたらしい。なんだかみんなピリピリしているのが感じられた。けれど何故か僕はどうでも良かった。首を絞めるなら俺の首でも絞めてみる。殺せるものなら殺して下さい。ってな感じです。ハッキリ言ってそんな事よりもこの束縛された空間の方がよっぽど僕は息苦しかったから。

話しは変わりますが、ちなみに今日は昔の仲間達が集まって池袋で飲み会の予定でした。けれど僕はこんな状態じゃ参加できず、僕抜きで飲み会は行われているはず。きっとみんなそれなりに楽しんでいることでしょう。僕は時々思う事は何故僕がここに居るのかと言う事です。体が痛んでいるわけでも無いのに病院にいるのはなぜ？ それとも心が病んでいるのでしょうか？ 時々自分が分からなくなります。・・・純粋な心・・・これは本当に病なのでしょうか？ 僕はそんな事ばかり考えてしまいます。この病院に来て感じた事はみんな（一部例外を除く）心がとても優しい人達が多いと言う事です。特に朋子ちゃんなんて僕の腕の傷を見て泣きながら痛かったんだよね、苦しかったんだよね、と僕の腕の傷を一つ一つさすりながら涙を流してくれた。正直今まで僕の傷を見て驚く人は多かったけれど、こんな僕の為に涙を流してくれた人は初めてだった。そんな純粋な心を持った人達が何故入院をして、それでも無い人が病院の外でヘラヘラ笑っているのが不思議に感じます。けれどそんな矛盾を感じていれば僕の頭の中は混乱し始めるので、この辺で今日の記事を終わらせます。

～純粹なんだよね きっと純粹過ぎちゃったんだよね だから僕らは苦しんでしまうのかもしれない けれどきっといつの日かそんな僕らに幸せは来るんだよね
永遠の眠りに就くその前に・・・～

8月11日(金曜日) 天気(晴れ)

今日も意味も無く日記を書いてしまいます。今日の出来事は窓の外のフェンスが更に高くなり、その上に有刺鉄線が張り巡らされたことでしょうか、でも一体何故そんな事をする必要があるのか全く分からない。この病棟は閉鎖病棟だけあって窓の外に出ることは出来ないのに、その窓の向こうのフェンスを高くして一体何の意味があるのだろうか、矛盾はいくらでもある。けれどその矛盾の答えは何処にも無い。いつだってそうであり、いつだってそうであり続ける。そんな事の繰り返しの中で僕は苦しんでしまう。それと最近病棟の中に若い人間が入ってきて病棟全体がにぎやかになった。基本的に僕は静かな環境が好きなので、今の環境は目が回ってしまう。だから必然的に病室のベッドの上で一人であることが多くなる。だから日記も何も書けない事になる。けれど今日我慢して明日になればまた外泊(二泊三日)があり、16日には退院が待っている。だから今は問題を起こせないし起こしたくない。だから僕はにぎやかな空間で刺激を受けるよりも静かな空間で静かに過ごす事に決めている。その結果日記は面白くないかもしれないけれど、許して欲しい。もう少しがんばれば晴れて退院だからその後に着いて詩や小説を書くので楽しみにしておいてください。

～僕らはいつだって自由なのさ 僕らはいつだって素敵な夢をいっぱい持っているのさ
だから僕らは負けない 例え今がこの世の果てに居たとしても・・・～

8月12日(土曜日) 天気(曇りのち雨)

今日は入院生活の最後の外泊になる。父が11時頃僕を迎えに来てくれて、それから僕らはそのまま家に直行した。それから夕方に友人K君がちょっとした野暮用で僕の家に来てくれて、そしてそのままファミリーレストランで軽くお茶を飲んだ。それ以外は特に大きな出来事は無かった。日記を書いていて最近分かってきた事はあまりにも一日というのは単調の連続なのだと言う事だ。そんな暮らしを僕らは何年も過ごし生きている。そんな中で僕らは日々悩み苦しむ事を繰り返しているのだろう。そしてその蓄積が今の僕を作り出している。それにしても一日はあまりにも短すぎるし、一日はあまりにも平凡すぎる。僕らはそんな一日と言う中で一体何が出来ると言うのだろう、何を考えて何をやればいいのか、けれど疑問と答えはいつでも別々のところにある。僕はそんな事をふっと時々思う。日記はそんな日々の答えを出しているわけではないのかもしれないが、日記を書くことによって一日を振り返る事が出来た。それはそれで良かったことなのかもしれない。こう言う日記を書かなければ、きっとそんな事にさえ気付かずにいたのかもしれない。僕はきっとこの先の日々の過ごし方を少し考える様になった事だろう。そしてそんな考えの答えを僕は日々出していきたい。そしてそれがこの日記の大きな意味だったのかもしれない。僕はそんな事を考えながら今日の日記を終わらせる事にします。

~君は君が掲げた疑問に答えを出しているのかい？ 君は君らしく生きているのかい？
僕はここに居るよ もう少しここに居るよ
だって僕はまだ新しい第一歩を踏み出してはいないのだから

8月13日（日曜日） 天気（台風9号接近中）

今日はまた朝から晩までやる事が無かった。外出しているとはいえ、自宅療養の為に外出は出来るだけしてはいけないと言う事で、家に一日中いた。となれば日記は分かっただけの通り何も書けないのが本音です。無理をして書いても意味が無いことは分かっているのだけれど、ここまで来ると意地でも書かないわけにはいかない。だから何か日記的な出来事を探したけれど一日中ベッドに横になっているだけで、一体何が書けると言うのだろうか？ けれど三宅島を初めの伊豆諸島の人達の事を考えるとそんな生活に不満を漏らしてはいられない、噴火を初めに地震はあるわ、台風は来るわで、避難している人達の事を考えると心が痛みます。けれど僕も僕なりに辛い事もある、それは今まで築きあげたモノが僕の手から放れていくことだ、車も手放せばバイクも手放した、そして最後の砦だったマンションですら、来月に手放すのが決定してしまった。何年も掛けて築きあげた僕の財産は一瞬で無くなる。それはあまりにも悲し過ぎる、けれど貯金が無くなって来れば、それは仕方なく手放さなければならない。僕もまるでこの社会から避難勧告を受けた難民の一人なのかもしれない。けれど僕はまだ負けるわけにはいかない。今日を生きて、明日も生きる。だって僕の本当の財産はまだここに隠し持っているのだから・・・。

~僕は何もかもを失った 僕は何もかもが無くなった
僕はまたゼロからのスタートになってしまった けれど僕は前を向いている
きっと明日からはまた前進するだろう この世の果てに向かって・・・~

8月14日（月曜日） 天気（晴れ）

今日はまた病院に帰って来なければならない日でした。事実上今日が最後の病院に帰らなければ日でもある。今日は父の運転で僕は病院に帰って来た。途中昼飯代わりに横浜横須賀道路の横須賀サービスエリアで横須賀名物海軍カレーと言うものを食べたが普通のカレーとあまり変わらない味だった。結構楽しみにしていた分、期待度が膨らみ過ぎたせいでちょっとショックだったが、その後に食べたソフトクリームが結構美味しかったので、それでちゃらって感じもした。とにかくそこのソフトクリームは一度試してもらいたいくらい美味しいソフトクリームだった。それから僕らは特に寄り道もせずに病院に着いた。それからは大きな出来事は無かった。けれど僕がいなかった三日間はかなり色々な事があつたらしくみんな騒いでいた。けれどそれを聞いてもみんなバラバラな事を言うので僕には理解出来なかったし、理解する気も無かった。とにかくみんな騒がないで、僕はもうすぐ退院なんだから、それまでは静かにして置いておいて、問題が起こってしまえばまた僕は混乱し始めるんで、そうなれば自分の意志とは関係無いところで僕は何をやり出すかわからない。だから今は静かにしていよう。だって僕は明後日には退院が待っているのだから。

~もう少しだね もう少しがんばろうね 誰でもいいから僕を応援しておくれ

また悪魔の声が聞こえてきたよ だから誰でもいいから僕を応援しておくれ
だって僕はもう後戻りなんてしたくはないのだから・・・～

8月15日(火曜日) 天気(曇り)

病院の中で日記を書くのも今夜で最後だ。病院の病室の中、白い壁、白い天井、そして白いベッド、今思えば長かった入院生活、その答えを今だそう。初めて病院の病棟を見たときに感じた圧迫感は今はもうない。今はその後の不安だけが僕を責め立てる。仕事は無事にやっていけるのか、生活は上手くこなして行けるのだろうか、生きて行くことさえ僕は器用に生きて行けるのだろうか、正直言って病院ではたいした治療は行われていない、だから僕の絶望的悩みは何も解決したとは言えない。けれど僕はこの病院から自分の病状とは関係なく退院をさせられる。そんな状況下の中で僕に不安がないなんて言えるだろうか、とてもじゃなくそんな事は言えない。病院では色々な人達と仲良くなった。みんなとても良い人達だ、それ自体は僕の貴重な財産となることだろう、けれど誰もが僕と同じ様な不安を抱えて日々を過ごしている。もう何ヶ月も入院している人間なんて僕の悩みよりももっと深刻でもっと不安があることだろう。心の病ってものは体の傷とは違って目に見えないからその分完治しているのか、していないのかがわかりにくい、それを全て医者任せにするのも無理ってものだ。だから僕らは必然的に苦しんでしまう。ちなみに僕が今一番したいことは一日も早く社会復帰する事だ。けれど退院したからと言って社会復帰が直ぐに出来るわけではない、徐々に社会の風を感じながら少しずつ社会に戻る事になるのだろう。だから僕が今一番したいことはそんな事なのかもしれない。早く社会に出て早く自分の存在を見つけなければならぬ。僕は本当に明日には退院出来る、そして社会の風を明日からは体全体で受け止めなければならぬ。それが今僕に出来る全てである。最後にこんな僕を最後まで励ましてくれ、勇気を与えてくれた仲間達に心からお礼を言いたい。本当にどうもありがとう。

～グッド バイ ベイビー グッド バイ ベイビー

今夜で何もかもにさよならさ

不安だった日々 初めて笑った日 そして初めて涙を流した日

何もかもがきつと今夜で最後さ

だって明日からは僕はまた歩き出さなければならぬ

真実に向かったの初めの第一歩を・・・～

～完～